



まるごとてんぱく探訪シリーズ



地域に笑顔があふれるまちづくりを目指し、各学区における地域のつながりや地域独自の魅力をお届けします。

天白区を5つのエリアに分けて、該当エリアの区政協力委員長と区長の懇談の様子をお伝えします。

第1回目は、平針南・平針・平針北・原の4学区の皆さまです。

学区の見どころは何ですか？

(平針南) 改装した細口池公園は大変素晴らしくなりました。春の水仙と桜は壮観です。池を中心に、生き物の観察会などを行っていて、ガマを除去してヨシを再生し、たくさんツバメがくるようになりました。あと、平針住宅の真ん中にある自然の森「でこぼこ山」は、本当に自然そのもので、生き物が生きやすい環境になっています。毎月末の土曜日に、「でこぼこ山自然クラブ」が自然観察会を行っています。もう一つの特徴は、自治会が学区全体を単一組織で構成されていることです。

(平針) 農業センター、それから秋葉山、針名神社など森が多いところです。学区行事の「みんなの作品展」が10周年になるので、歴史を探る会で集めた写真を展示しようと考えています。古い歴史を生かした街づくりをしていきたいです。そして、木遣りは名古屋市の重要な文化財です。

(平針北) この4学区の中で1番新しいです。平針北学区が30周年を迎えたときに、学区の花を桜に設定し、学区の北側に流れている天白川沿いに、79本の桜を植樹してやっと最近、見どころになってきたと思っています。また、地下鉄の駅が2つあり、商店街も2つあります。大変住みやすく暮らしやすい街だと思っています。

(原) 屈指の文教地区です。保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学があり、さらに荒木集成館という博物館があります。それから景色が豊かなところ。冬場は302号線から、雪の御嶽山や木曾山脈が見えて、車を止めて見たいぐらい素晴らしい景色です。

(区長) 3月の平針北学区のイベントに参加させていただいたとき、学区内の御嶽山が見える高台

や天白川沿いの桜並木は、まさに原風景ですね。あの79本の桜並木はとても印象深いです。あれを見るときと皆さん、自分が育った必ず地元

(平針北) 平針は本当にわずかな間に町になりました。ベッドタウン的なところでいい地区だと思います。歴史もあるし、文教地区でもある。医療関係の施設も多い。名古屋市内で住みたいまち1位になっても不思議でないと思います。

(平針) 昭和初期は商店街がたくさんあったのに地下鉄が通り、ガスや水道が整備されて町の様子が変わりました。

(区長) 様々なインフラが整備されて、町の様子がいかに変わっていったかを平針エリアの皆さんが一番わかりやすく発信できるように思います。

学区運営にかける思い

(平針南) 人間同士が思いやって寄り添うというようなことは当たり前ですが、なかなか難しいです。当たり前だけれども、他の生き物に対して慈しみを持つという気持ちを大事にしていけば、地域は温かくて優しい町になるのではと思います。学区運営の中では、色々なことでギクシャクすることもあります。そういう気持ちを大切にしていきたいと思っています。

(平針) 自分ができることだけはやろうと思ってやってきました。防犯灯を一気に設置したり、防犯カメラを付けた。毎月毎年の維持費も大変ですが、できるだけ新しいものを取り入れていこうと思っています。もう一つ、wi-fiも先週契約して、コミセンに付きます。来年度当初にはホームページも作ります。少しでも地域の方々に色々なことを知ってもらいたい。若い人たち

が興味を持ってもらえるような地域を作りたいです。

(平針北) 学区ができてから 33 年目、新しい人たちが多いため、新しい町づくりはやり易かったと思います。平針が親、原がその子ども、平針北は孫の代です。だから、いいところを取り入れてきました。20 年誌があって、住民に地域の諸問題についてアンケートを取っていますが、今とほとんど変わりません。悩みが変わらない中でも色々努力はしてきたつもりで、ホームページ作成も、多分天白の中では早いと思います。最近では「防災」について注力しています。昔は防災一つとっても区役所と消防署で別々のことをやっていましたが連携が取れてきました。でも、警察、防犯協会、安心安全の防犯部会、交通部会など、うまくいっていないこともあります。

(平針) 町内会長になって 1 年ぐらい経った後に中日新聞の発言欄に縦割り行政のことを投稿しました。当時の区長さんがそれをコピーして全職員に配ったようです。学区の防災活動でおかしいな、と思ったことを投稿しました。その後、災害対策委員の動きが時系列で出てきました。消防署に行き、当時の係長に何をどうしたらいいのかを聞きました。伝えると動いてくれる。少しは変わっていきつつあると感じます。

(平針北) 今の天白区役所はすごく変わってきている。いい風に。

(原) 一番の改革は学区連絡協議会と区政の会を 1 つに合体し、原学区区政連絡協議会という組織を作っていることです。ここで、学区の問題、課題を共有し、どう解決していくかという組織が出来上がりました。例えば、原盆踊り大会を、大勢が参加できる納涼祭りに変えました。住民の意見を反映した行事ではふれあいの輪が広がっていく。平針学区は古いから郷土愛がある。だけど、原はまだそこまでないから、我が町は、という郷土愛を持てるような学区にしたいと思っています。願うのは住民が一丸となって同じ問題を見つけて解決していきたいということです。

(区長) 今年の夏祭りでどまつりに出演される子どもさんたちの演技を拝見しました。力を感じましたね。住民中心の祭りというのがすでに成功しているのだろうな、と感じました。

この次の 50 年に向けて地域の子もたちに伝えたいこと

(平針南) 日本は高齢化と少子化で経済活動も非常に各国に遅れを取っている現状から、子どもたちに「未来は明るいよ」とは言えない。でも、「人は経済合理性だけが大事じゃないんだよ」と伝えたいです。何年経とうが社会がどんな形になろうが、「人は温かくて優しいものだよ、一緒にそうなるよ」ということを伝えたいです。

(平針) 平針学区では、たくさんのイベントを開催しています。公民館スタンプラリーもやっていて、若いお母さんも結構参加しています。子どもたちにもたくさん参加してもらいたい。親子で参加できるちょいボランティアを企画していきたいと思います。あと区役所はじめ色々な相手とコラボすることが大事なことだと感じています。去年、スタンプラリーをやった時に区役所、消防署、警察署も全部動いてくれて、キャラクターたちが来てくれました。

(平針北) ケッシーくん、コノハ警部、かぼちが 3 つ揃ったと言って、お子さんが喜んでいましたね。

(平針) 平針も夏祭りを実行委員会方式にして今年はキッチンカーを呼びました。PTAのお母さんが、子どもたちにお金を渡して何か食べさせておきたいと言われました。それが今の時代の人たちに受けるやり方なのです。

(平針南) 今の時代の趣味も多様化したから、みんな個人で固まるようになった。高齢者も陶芸だったら陶芸、絵だったら絵、短歌だったら短歌で集まって、地域のことよりもそっちの方が楽しい。そういう時代になってきていると感じます。

(区長) 趣味でも何でも繋がって外に出ることが大事だという点ではウェルカムですが、一方で地域のつながりということからすると、趣味だけに行ってしまうのは、というところがありますね。

(平針北) 平針北小学校は統廃合の計画に入っていて、とても心配しています。私のふるさと、思い出が残るような心に残るような、地域にしたいなという風に思います。先ほど言いましたように名所旧跡はなく、歴史の浅い地域なので、青少年育成部会が中心となって子どもたちの思い出作りに色々なことを考えています。その 1 つがスタンプラリーであり、夏祭りであり、ク

クリスマス前のペットボトルツリーです。平針北学区は単身世帯が多いです。そして町内会加入率が37パーセントを切っていて非常に低い。最近では、若い人だけじゃなくどの地域でも老人会がなくなっている。平針北小学校のPTAは何か行事があると役員だけではなく、PTA全員に参加の可否を聞きます。私はある意味それが非常にいいことだなと思っています。

(原) これからの子どもたちに「伝えたい」ことに加えて、「残したい」こともあります。残したいのは、先ほど御嶽山の話をしました。冬景色が本当に素晴らしくていつまでも残したい。あと学区に原音頭という盆踊り曲があって、10周年の時に住民が作詞作曲と振り付けをしたけれども、一回で終わってしまいました。だから、それを復活させて、子どもたちにやってもらいたいです。夏祭りに例えるならやっぱり住民が1つになる取り組みをずっと伝えていってほしいと思います。

組織の課題について、参加することの楽しさについて

(平針南) 平針南学区は色々な事業をやっています。ゆえに役員をやるのが非常に負担になってきています。でも、役員の負担が多いから機械的に減らせではダメですが、これからの地域活動は簡素化が大事なことだと思います。役員が色々な仕事に集中しているから、ちょっと手伝ってくれる人が、たくさん出て来てくれると回る部分もあります。

(平針北) 組織を作る時に会員を増やすなり入れ替えるなりを初めに決めておくことが大事です。固定化してしまうと、どこも同じような会、どこも同じような面々になります。ますますなり手が無い。名古屋市は区政協力委員という独自制度を作っていますが、各町内会あるいは自治会をあてにしています。そしてそれが災害対策委員です、と。役員のなり手が無いのは当たり前です。さっき言った一人一役、一活動、そういう方向に進んでいかないといけないです。役員の話でいえば、例えば、PTAや子ども会の役員をやった方は、やっている時は嫌だ、大変だ、と言っているのだけど、後から大変だったけど楽しかったね、という声が圧倒的に多いです。そういう話をちゃんとしますが、町内会に入ってよってという話をすると、ハードルが高いのかそこの一歩が出ないのですよね。

(平針) 私自身がそんな地域でも全然参加してなかったのですが、やってみると面白いです。外に出て行ってみんなと一緒に、先生の指導を受けてやっているとこれが楽しい。要するに、参加することですよ。

(原) 大事なことは、やっぱり人との関わり、人間関係作りなのです。だから、人間関係を自分の身近なところからしっかり作っていけば、だんだんその輪が広がっていくということが大事じゃないかな。

(区長) 地域役員の方が、その活動の中でワンポイント、とにかく地域組織の活動のやりがい、楽しさを実感していただけることが大事なのかなと思います。そのことにより地域の方々の、町内会や地域役員そのものへの考え方が少しずつ変わっていくのではと思います。

